

人工知能(AI)利用に関するガイダンス: 夢を生きる賞審査について

審査員向け

概要

テクノロジーは常に変化し進化し続けているため、SIAはその動向を把握し、応募者の間で人工知能(AI)の利用が広がっていることを認識することが重要です。人工知能(AI)の利用が拡大するにつれ、こうした進化し続けるツールを活用することと、プログラムの公正性を保つために許容される利用範囲について明確な線引きを設けることの間で、バランスを取ることが重要になっています。クラブや応募者からのご意見、および応募システムのユーザーエクスペリエンス調査の結果から、AIの使われ方には適切な場合とそうでない場合があることが分かりました。そのため、審査員がAIが適切に使用されたか、あるいは応募者に提示されたガイドラインを超える形で使用されたかを判断する際の助けとなるよう、本ガイダンスを提供します。

応募者には、人工知能(AI)ツールを文章作成の補助として限定的に使用できる一方、すべての回答は応募者ご自身の考え、経験、目標を反映したものでなければならないことが伝えられています。すべての応募書類は人の手によって審査されます。

本ガイダンスは、すべての応募書類にわたって公正かつ一貫した審査を支援するものです。

応募者に伝えられた内容

応募者には、AIの許容される使用方法と許容されない使用方法についてのガイダンスが提供されています。詳細は[応募者向けAIガイダンス](#)をご確認ください。

審査員のための背景情報

応募システムを通じて応募した25-26年度の全受給者に対し、応募システムのユーザーエクスペリエンス調査への回答を依頼しました。回答結果によると、最も一般的なAIの使用方法是以下の通りでした。

- 文法・スペルの修正
- 元のアイデアを維持したまま、文章の語調や表現を整えること
- 特に英語を母語としない応募者への指示内容の明確化
- 自力で書き始める前に、含めるべき内容の大まかな構成を把握すること

AIによる支援が最も多かったセクションは以下の通りでした。

- 作文セクション: この賞が「夢を生きる」ことにどのように役立つか
- 作文セクション: キャリア目標
- 財務セクション

応募者からは、個人的な内容や経験、核となるアイデアは自分自身のものであるという回答が一貫して得られ、AIは有用な支援ツールとなり得るものの、個人の文章作成に取って代わるべきではないという点で概ね一致していました。

AIの不適切な使用を示す可能性のある兆候

以下は、AIが単なる補助ではなく、実際に文章を書くために使用された可能性を示す兆候です。これらは決定的な証拠ではなく、あくまでシグナルとしてご活用いただき、各応募書類の全体的な文脈を考慮してください。

解釈に関する注意点: これらの兆候は、不適格と判断するためのチェックリストではなく、より注意深く見直すきっかけとして意図されたものです。堅い口調、非常に構造化された段落、技術的または字義通りの回答、控えめな感情表現など、これらの特徴の多くは、応募者の神経多様性(自閉症を含む)、文化的背景、第二言語での作文、あるいは単にその人らしい文体を反映している場合もあります。審査員はこれらの兆候を総合的に判断し、文章のスタイルだけを理由に応募者を不利に評価することのないようにしてください。AIの使用が疑われる場合は、単一の特徴だけで判断するのではなく、複数の兆候が組み合わさっているパターン(特に、他の方法では説明しにくい、角括弧のプレースホルダーや設問文の繰り返しといった兆候)に注目してください。

- 他のコミュニケーションや作文の語調と一致しない、過度に堅い言葉遣い
- 個人的な詳細や具体的な実体験に欠ける、洗練されているが一般的すぎる表現
- 以前に読んだことがあるかのような、型にはまった、または一般的すぎる回答で、ほとんどの応募者にも当てはまりそうな内容
- 応募書類の他の部分と一致しない、不自然な形式性や複雑さ
- 具体的な個人的背景を伴わない、曖昧または抽象的なキャリア目標
- 設問に技術的には答えているものの、本人が自分自身の物語を語っているという実感が伴わない回答—例えば、キャリア目標や履修科目、経済的な必要性について、論理的かつ完全に説明されているものの、その目標がなぜ本人にとって大切なのか、困難を経験したときにどう感じたか、あるいは人生の転機にどのような気持ちだったかについての言及が一切ない場合。
- つなぎ言葉の過度な使用や、形式的に構造化された段落構成(例:「まず...次に...結論として...」)
- 設問文をそのまま定型的に繰り返す、または夢を生きる賞とは何かを説明している場合
- 作文同士、または作文と応募書類の他の部分との間の不整合(例: 希望するキャリア目標、教育プログラム、専攻分野が一致しない場合)
- [応募者名]や[大学名]のように、角括弧で示された情報がそのまま残っている場合

懸念事項への対応方法

応募書類が軽度のAI支援を受けたと思われる場合(文法・編集のみ):

通常の審査を進めてください。軽度の編集支援は許可されており、資格には影響しません。

回答が非個人的または型にはまった印象を受けるが、AI生成であることが明確でない場合:

応募書類全体を確認し、応募者の経験、学歴、専攻分野を考慮することをお勧めします。審査員は、その応募書類を審査対象とするかどうかを判断することができます。

回答が実質的にAIによって生成されたと思われる場合:

推奨される対応の選択肢:

1. 応募書類を「対象外」としてマークし、賞の審査対象としないでください。
2. 応募書類の他の部分は対象資格を満たしているものの、内容が非常に弱い場合は、応募書類を「完了・審査準備済み」としてマークし、その後、クラブの決定を示す段階で「受賞なし」としてマークしてください。(本部に届く応募書類についても同様の対応を行っています。AIの使用が疑わしい、または内容が極めて弱い応募書類はすべて、締め切り後に「受賞なし」としてマークしています。これにより、対象外となった理由についての問い合わせを減らすことができます。)
3. 応募書類を「未完了」としてマークし、確認・修正のために返送してください。
 - 情報を確認するために、応募書類を応募者に返送することをお勧めします。AIの使用を直接的に断定することは避け、慎重に対応するようにしてください。これは証明が難しいためです(ただし、作文中に[教育プログラム]のような表記がそのまま残っているなど、明らかな場合は例外です)。
 - 応募者向けガイドラインに従い、AIによって生成されたと思われる応募書類は、確認のために返送される、または審査対象とならない場合があります。
 - AIを使って書かれたように見える応募書類は、審査員に好意的に評価される可能性が低いことをお伝えいただいても構いません。回答は応募者ご自身の文章であり、ご自身の言葉で書かれている必要があります。作文セクションが個人的であればあるほど、より説得力のある応募書類となります。
 - AIの使用に関して提供されている[定型文](#)をご活用ください。

最終的には、AIの使用にどの程度厳格に対応するかはクラブの判断に委ねられます。クラブ会長には、どの程度の使用が許容範囲かをご自身で判断していただくことをお勧めします。これは、応募書類全体を確認し、場合によっては応募者との対話・面談を通じて状況を十分に把握することで判断できますし、受け取った応募数の規模によって判断することもできます。応募数が多い場合、これは応募書類を絞り込む上で有効な方法となり得ます。

しかし、全体像を見ることも重要です。英語を第二言語とする応募者で、文章力に自信がないために使用している可能性もあります。応募者の文章力に影響を与える障がいがある場合も考えられます。AIが役立つツ

ールであることは理解していますが、それでも応募者ご自身の個性と声が反映された、パーソナライズされた文章を見たいと考えています。

推薦文におけるAIの使用

更新された推薦文フォームには次のように記載されています。「本推薦フォームを提出することにより、AIツールが私の文章作成を支援した可能性はあるものの、私の回答や考えはすべて私自身のものであることを証明します。また、私は応募者と血縁または婚姻関係にないことを確認します。」

推薦者が回答の作成にAIを使用したと思われる場合は、推薦者に電話で確認する、または別の推薦者を依頼していただいても構いません。応募者の場合と同様に、AIの使用にどの程度厳格に対応するかはクラブの判断に委ねられます。

ご質問がある場合は、SIAプログラムチーム(lydawards@soroptimist.org)までお問い合わせください。